

〔一〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

政治にはいろいろな次元の舞台がありますが、これらに共通するものは何なのでしょ

うか。政治とよばれる活動に共通する本質は、一つの社会を構成する人々や団体を拘束する決まりごと、ルールを作るという点にあります。このルールはたんなる努力目標ではありません。拘束力をもつところに特徴があります。ルールを破った場合、そのルールを守るよう強制されたり、制裁を受けたりするのです。たとえば、所得があって税金を払わなければならない人が納税を怠っていると、財産を差し押さえられて、罰を受けることになっています。

こうした強制や処罰をおこなう機関のことを、暴力装置といいます。暴力装置というと何やら恐ろしい響きがありますが、ルールの遵守を強制するためには、最終的には力の裏付けが必要なのです。国家には、警察、刑務所、税務署などの役所が置かれていますが、これらはどれもルールの遵守のためにおかれた暴力装置です。

国を超えた国際社会には、警察や税務署に相当する役所は存在しません。つまり、決まりを破った場合に対する制裁や強制のしくみは、国のなかほど強いものが整備されているわけではないのです。けれども、国際社会のルールである条約も拘束力を持ち、条約に加盟した国々の行動を規制しています。A、一九九〇年代の初めまで、日本はコメを一切輸入しないとい

ってがんばっていましたが、農産物貿易の自由化についての国際的なルールを受け容れたことで、九〇年代半ばからコメの輸入を開始しました。このように、社会の存続に必要なルールを作り、それを実現するという作業が、政治なのです。ルールには、法律のように文章化され、だれにでもわかるように表示されているものもあれば、何となく暗黙のうちに了解する常識や慣習に近いものもあります。そのような形式を別にして、社会のルールを作る営みが広い意味での政治という活動なのです。

B、そもそも、どうして人間の社会にはルールが必要なのでしょう。

この点は、古代ギリシャのプラトンやアリストテレスをはじめ、多くの哲学者が考えてきた問題です。アリストテレスは、「人間はポリス的動物である」と言いました。ポリスとは、歴史の教科書では「都市国家」と出てきます。今の感覚でい

えれば、地域の共同体をイメージすればよいでしょう。人間は、他の動物とちがって、そういう共同体のなかでしか生きられないことを、アリストテレスは見抜いていました。

動物のなかにも群れを作って生活をするものはありますが、動物の群れと人間の社会は根本的にちがいます。ミツバチなどを例外として、動物はみな同じような活動をします。自分で食べ物を集め、巣を作り、子どもを産み育てる、これをすべて一匹がおこないます。

これに対して、人間は、自分一人で身の回りの必要を満たすことができません。食料を生産する人、衣服を作る人、道具を作る人、燃料を生産する人というように、いろいろな役割に分かれるのが人間の社会の特徴です。人間はそれぞれ異なる役割をもち、互いに依存しあう関係を作ります。人間が豊かな生活をするためには、このような分業と相互依存が不可欠なのです。

たくさん人間が相互に依存しあう社会をつくれれば、当然、人間どうしの関係についてルールが必要となります。このようなルールにはさまざまなものがあります。私たちは子どものころから、親や周囲の大人からいろいろなことを教えられてきました。人に迷惑をかけない、嘘をつかない、悪いことをしたら謝るなど、私たちが生きていくうえで必要な常識は、子どものころから学んできたものです。それぞれの人が、だれかから指図されなくても、罰則があろうとなかろうと、進んでこれらのルールを守るようであれば、人間の社会は円満に維持できるでしょう。

C、すべての人が自発的にルールを守って平和な社会を作るなどということは、残念ながら期待できません。人間は、意図して、あるいは偶然に、ルールを破ることがあります。

私が大学生のころ、初めて民法という法律を勉強したとき、不正直で不誠実な人間の行動を前提としたルールがいろいろと用意されていることに驚いたことを覚えています。売主が一つの品物を二人に売る約束をした場合、どちらの買主が優先されるかとか、それが土地などの不動産の場合であればどうなるかとか、さまざまな事例への対処の方法を勉強しました。法律を勉強し始めたばかりの学生にとって、人間がそんなに悪いものとは思えなかったもので、とても印象に残っています。しかし、残念なことに、人間は嘘をついたり裏切ったりする不完全な生き物です。そういう前提で法律はつくられている

のです。

人間のこのような不完全さこそが、政治が必要となる理由^③です。人間は野獸^{ヤシヤウ}でも、天使でもありません。人間がたんなる動物であれば、自然の秩序^{注8}に支配されるだけです。そこには別にルールなど必要ありません。また、人間が天使であれば、すべての行動は正しいものであり、やはりルールなどいらなくなります。

人間の本性は善か悪か、という問題は、大昔の中国で孟子^{モウシ}や荀子^{ジヤンシ}などの思想家が論じて以来、人間にとっての大テーマです。しかし、善悪のどちらか一方に決め付けられないのが人間の本性です。他人を信じ、協力しあって社会を作っているという意味では、人間には善なる部分があります。しかし、自分勝手に、時として他人^{注9}を陥^{注10}れても自分の欲望を追求したがるという意味では、悪なる部分もあります。

□a なる部分があるからこそ、ルールが必要になるのです。また、□b なる部分があるからこそ、人間はルールを守る能力をもっているわけで、ルールを作る意味もあるのです。

(山口二郎『政治のしくみがわかる本』)

注1 拘束 Ⅱ 行動、判断、選択^{せんたく}などの自由を制限すること。

注2 制裁 Ⅱ 集団のルールにそむいた者をこらしめること。

注3 遵守 Ⅱ ルールなどに従い、それをよく守ること。

注4 哲学者 Ⅱ 人間・社会・自然について、基本的な法則を研究する人のこと。

注5 共同体 Ⅱ 血縁・地域などで作られている社会集団。例えば、家族・子ども会・町内会など。

注6 意図 Ⅱ ある目的をもって、こうしようと考えること。

注7 民法 Ⅱ 個人の権利・義務などに関する法律の総称。

注8 秩序 Ⅱ 集団などが望ましい状態を保つための順序やきまり。

注9 思想家 Ⅱ 社会・人生などについて深い考えを持つ人。特に、その内容を公表し、他に影響^{えいきやう}を与える人のこと。

注10 陥れる Ⅱ だまして苦しい立場に追いやること。

問1 〰〰〰線a 〰eの漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

問2 □A 〰 □C に入れるのに最も適当なことを、次のア 〰 オの中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度しか使えません。

ア つまり イ たとえば ウ では エ あるいは オ けれども

問3 〰線①「暴力装置」とありますが、これはどのような役割を持った機関のことをいいますか。四十字以内で説明しなさい。(、や。もふくみます)

問4 〰線②「人間は、他の動物とちがって、そういう共同体のなかでしか生きられない」とありますが、それはなぜですか。理由を七十字以内で答えなさい。(、や。もふくみます)

問5 〰線③「政治が必要となる理由」とありますが、その理由として適当でないものを、次のア 〰 オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 人間は嘘をついたり、裏切ったりする不完全な生き物だから。
イ 人間は、自然の秩序に支配される動物の一種だから。
ウ すべての行動が正しい人間は存在しないから。
エ 生きていくうえで必要な常識が守れない人間がいるから。
オ 人間の社会は、相互に依存しあう社会だから。

問6 a・bに入れるのに最も適当な漢字一字を、本文中からそれぞれぬき出しなさい。

問7 次のア～オの中から、本文の内容と合っているものを一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 日本でのコメの輸入は、国が、暗黙のうちに了解する慣習を受け入れたことで始まった。
イ 群れを作って生活する動物の社会には、人間社会同様、暴力装置としての機関が存在する。
ウ 政治とは、人々を拘束する力をもつ社会のルールを作り、それを実現する作業のことである。
エ 昔から「人間の本性は善か、悪か」と論じられてきたが、結局は人間の本性は善である。
オ 日本には様々な法律があるが、人間の不正直・不誠実さにふれているのは民法だけである。

〔二〕 次の各問いに答えなさい。

問1 次の文の（ ）の中に入る語として適当なものを、次のア～キの中からそれぞれ二つずつ選んで、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は、二度まで使えます。

- ① 以前から楽しみにしていた遠足は雨で中止になった。（ ） 行けるものと思っていたのに。
- ② 全ての結果が出てしまってからアドバイスをもらっても、（ ） 意味がない。
- ③ 前に通った小学校に遊びに行ったら、古い友人が校庭で（ ） 遊んでいるところだった。
- ④ 富士山の形は、（ ） すりばちをさかさまにしたようだ。
- ⑤ 冬休みの宿題は、（ ） 自力でやりとげてくださいね！

ア	ぜひと	イ	必ず	ウ	ちようど	エ	てっきり
オ	およそ	カ	たまたま	キ	まるで		

問2 次の文の——線部の「を」を「が」に、または「が」を「を」に置きかえたとき、~~~~線部のことばは、どうなりますか。例にならって、（ ）の中にひらがなを、一字、または二字入れて答えなさい。

（例）意見が、出る。 ↓ 意見を、出（す）。

① 液体を、混ぜる。 ↓ 液体が、混（ ）。

- ② アンケートの結果を、集める。↓ アンケートの結果が、集（ ）。
- ③ 人の和が、乱れる。↓ 人の和を、乱（ ）。
- ④ 庭の池の水を、満たす。↓ 庭の池の水が、満（ ）。
- ⑤ 彼を、その場に横たえる。↓ 彼が、その場に横た（ ）。

問3 次の文の（ ）の中に入る語として最も適当なものを、後のア～キの中から一つずつ選んで、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は、一度しか使えません。

- ① 頼りにしていた親友の（ ）返事には、思いがけずがっかりした。
- ② 十試合に出場して十敗では、（ ）成績としか言いようがない。
- ③ その老人は体力がおとろえて、（ ）足取りで歩いていた。
- ④ 多少の苦難も（ ）かれの立派な態度には感心した。
- ⑤ 私は経済事情に（ ）ので、どうかていねいに説明してください。

ア	おぼつかない	イ	うとい	ウ	ふがない	エ	いとらしい
オ	つれない	カ	しおらしい	キ	いとわない		

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①

とあるデパートの昆虫売り場。

熱心にクワガタを見ていた少年が、昆虫のエサを商品棚に並べていた店員に問いかけます。

「すみませーん」

「うん？ なんだい、坊や。あ、クワガタかい」

店員はエサを持ったまま駆けつけます。

「うん、そうなんだけど……。ねえ、おじさん。クワガタの値段ってどうやって決めてるの？」

「値段？」

「うん、値段」

「そうだな。やっぱり体の大きさとか、ツノの形かな。体が大きかったり、ツノがかっこよかったりすると値段が高くなるんだよ」

②

すると、それを聞いた少年がいぶかしげにいました。

「ふーん。でもそれだったらおかしいよ」

「おかしいってなにが？」

「だって、向こうのかごに入ってるクワガタは、全部一匹3000円でしょ。それなのに、なんでこのクワガタはこんなに安いのか？ 体だって大きいし……。それにツノだってかっこいいよ」

そう少年が指差したクワガタのかごには「300円」と値札が貼られています。

「それに、ほかのかごにはたくさんクワガタがいるのに、このかごだけ二匹しかないけど……。安いからたくさん売れち

やったの？」

小首をかしげる少年を見て、店員は、またか、と心の中でため息をつきました。

「違うよ、坊や。よく、この二匹のクワガタを見てごらん。どちらも足が五本しかないだろう」

「え？」

少年は目を皿のようにしてクワガタの足の数を数え始めます。

「一本、二本……。ホントだ、五本だ。こっちのクワガタもそうなの？ 一本、二本……。こっちも五本だ」

五本足のクワガタに驚いたのでしょうか。少年は黙りこんでしまいました。

③「かわいそうだけど、このかごのクワガタはどちらも足が一本折れちゃってるんだ。乱暴に捕まえると、時々こうして足が折れちゃうんだ」

少年はなにも答えずに、しかし、①目をそらすまいとするかのように、クワガタを見つめ続けています。一方、②気の重い種明かしを終えて心が楽になったのか、店員の口は少しカロヤかになりました。

「まあ、だけどそれも運命かな。それよりも、足がないクワガタなんて人気もないし、ただじゃまなだけだよ。実際、こんなに安いのに、昨日からだれも買おうとしないしね」

店内はクワガタの羽音が聞こえそうなほどの静けさに包まれましたが、やがて、ずっとくちびるをかんていた少年が口を開きました。

「よし、決めた。おじさん、ボク、このクワガタを買います」

「え？ この足がないやつをかい？」

「足がないって、ちゃんと五本もあるでしょ」

少年のその真剣なまなざしに店員は一瞬たじろぎましたが、③すぐにある疑問が頭をよぎりました。

「坊やがそういうならおじさんも無理には止めないけど、ひょっとして坊や、おこづかいが足りないの？」

「ううん。今、5000円持ってるよ」

店員はその答えに安心すると、大きな笑い声を発しました。

「ハハハ。それなら坊や、こんなクワガタはやめて、向こうのちゃんとしたクワガタにしよう」

「ちゃんとしたクワガタ？」

「うん、向こうの普通のクワガタを見に行こう。おじさんが説明してあげるから。あ、それから、このクワガタがそんなに気に入ったのなら、あっちのクワガタを買ってくれたらだに一緒に持つて帰りなさい。どうせ、だれも買わないんだから」

そういうと、店員は少年の手を取って3000円のクワガタのかごに向かって歩き出しました。ところが、店員に手を引かれた少年は、五本足のクワガタにミレンがあるかのようにその場を動こうとはしません。

「ちょ、ちょっと待って、おじさん！」

少年は叫びましたが、足はついに床からはがれることはなく、その場に転んでしまいました。

④

カキン。

金属音が鳴りひびきます。

「なんだ、今の音は？」

店員はすばやく店内を見わたして、自分と少年しかいないことを確かめると、振り向いて少年にあやまりました。

「ごめんよ、坊や。大丈夫かい」

少年はコクリとうなずきます。

「よかった。それから、今、なにか音がなかったかい？ 金属バットみたいな音」

すると、少年はすっと立ち上がり、ズボンの右足のすそをまくり上げながらいいました。

「それはこの音だよ」

音の正体を見た店員は、驚きのあまり顔をこわばらせました。

「坊や、その足は……」

「うん、義足だよ。色が肌の色と同じだから、ちょっと見ただけじゃわからないでしょう？」

「ぎ、義足……」

「ボク、幼稚園のときに車にひかれて、右足がなくなっちゃったんだ。それからずっと、この義足が足がわりってわけ」
店員は、必死にことばを探しますが見つかりません。

[5]

「でもおじさん。確かにボクは右足がないけど、自分がちゃんとしてないとか、普通じゃない、なんて思ったことは一度もないよ。そりゃ、友だちみたいに走ったりできないし、それにサッカーだってやりたいけど……。だけどね、ボク、これでも歩いて学校に通ってるんだ」

「へえ。ど、どのくらい歩いているの？」

店員がやっと見つけたことばでした。

「一キロだよ。あ、それからおじさん。足のないクワガタは人気がないっていったけど、ボク、一学期は学級委員長だったんだよ。選挙で選ばれたんだ。クラスではけっこう人気者なんだから」

「……………」

「ねえ、おじさん。聞いているの？」

「あ、ああ。もちろん聞いているさ。坊や、学級委員長なんてすごいじゃないか」

「でしょ。それよりちょっと考えてみてよ。ボクなんか二本のうち一本しか足がないのに、このクワガタは六本のうち五本も残ってるでしょ。通分すれば、このクワガタのほうが数が大きいんだよ。ボクは六分の三、クワガタは六分の五だもん」
そういうと、少年は本当に嬉しそうにほえみしました。

「通分……。思い出した。おじさんも坊やくらいのときにそんなこと習ったよ。坊や、算数が好きなのかい？」

「うん、大好き！ 将来はノーベル賞を取るんだ」

「それはでっかい夢だなー」

「それにさ、体も大きいし、ツノだって3000円のクワガタよりずっとかっこいいじゃん。ね、だからボク、やっぱりこのクワガタにするよ！」

⑥ コウフンする少年に、落ち着きを取り戻した店員も負けじと高い声で応じました。

「そうか！ 坊やがそういうなら、このクワガタにしようか！」

「うん！」

「どうする、坊や。二匹持っていくかい？」

「うーん……」

少年は、考えこむ顔をしたあと口を開きました。

「一匹でいいです」

[6]

店員は、五本足のクワガタをてぎわよく箱に入れて、お釣りの4700円と一緒に少年に手わたしました。と同時に、さっきまで手にしていたエサに目を落とします。

「そうだ、坊や。このエサはサービスするよ」

「サービス？」

「そう、ただあげるってこと」

「ホント！ なんかもうかっちゃった。でも、このエサ、700円って書いてあるよ。クワガタよりも高いのに」

「いや。これはお礼だよ。④ 坊やが大切なことを教えてくれたから」

「大切なこと？ それって通分のこと？」

「通分？ う、うん。まあ、そうかな。ハハハ」

④ テレ笑いを浮かべる店員に別れを告げて、少年は五本足のクワガタと去って行きます。店員は、歩くたびに発する少年の右足の硬い金属音の中で、彼の後ろスガタを目で追い続けました。
そして、少年の背中が視界から消えたあと、一匹だけ残ったクワガタのかごに近づき、「300円」の値札に「0」を一つ付け加えたのでした。

(大村あつし『クワガタと少年』)

問1 〜〜線a)〜e)のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 線①「目をそらすまいとするかのように、クワガタを見つめ続けています」とありますが、少年がそのような態度をとったのはなぜですか。最も適当なものを次のア〜オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア クワガタの足が生まれつき欠けているというだけで、値段が安くなることに驚いてしまったから。
イ 足が一本欠けているクワガタと、片足を失い義足をつけている自分を重ね合わせているから。
ウ 足が一本欠けているクワガタを見て、自分も価値がない存在なのではないかと考えてしまったから。
エ クワガタの足が一本欠けているというだけで、値段が安くなってしまいうことに腹を立てたから。
オ 乱暴にあつかわれて足を失い、世間からの評価が低くなった点が、自分と同じだと感じられたから。

問3 線②「気の重い種明かし」とありますが、気が重いのはなぜですか。最も適当なものを次のア〜オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 足のないクワガタがなかなか売れないことに困りはて、店長にはないしょで値下げをしたことがばれてしまうから。
イ 足が一本欠けているクワガタを買う人はいないので値下げをしたのだが、本当は三百円でも高すぎると思っていたから。
ウ 足が一本欠けたクワガタが売れないことに困り、じゃまになったので売るよりは捨ててしまいたいと思っているから。
エ これまでに何人もの子供たちに同じ質問をされていて、そのたびにうそをつかなければならないのがつらかったから。
オ 小さい子供に、値段が十分の一である理由は「足が一本ない」からだ、というつらい事実を伝えなければならぬから。

問4 線③「ある疑問」とはどのような疑問ですか。二十五字以内で説明しなさい。(、や。もふくみます)

問5 線④「坊やが大切なことを教えてくれた」とありますが、「大切なこと」とはどういうことですか。——線部より後の内容を参考にして、五十字以内で具体的に説明しなさい。ただし「クワガタ」「人」「価値」の三つのことばを一度ずつ使って答えなさい。(、や。もふくみます)

問6 この本文を読んだ後、授業が行われました。担任のタツオ先生は「これは夏休み中の話だね。」と言いました。タツオ先生はその理由を次のように説明してくれました。文中の[A]・[B]にはどのような言葉が入りますか。それぞれ十五字以内で答えなさい。(、や。もふくみます)

国語

注

意

- 1 問題は〔一〕から〔三〕まであります。
- 2 時間は50分です。
- 3 答えはすべて解答用紙にていねいに記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 4 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。

(23—M)

A ことと、少年が B と言っていることから、夏休み中のできごとではないか、と考えることができるんだ。

問7 本文は、①から⑥まで、六つの部分に分けてあります。それを内容の上から三つに区切るとすれば、どのように区切るのが最も適当ですか。次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア	(①)	(②)	—	(③)	(④)	—	(⑤)	(⑥)
イ	(①)	—	(②)	(③)	(④)	—	(⑤)	(⑥)
ウ	(①)	(②)	—	(③)	(④)	(⑤)	—	(⑥)
エ	(①)	(②)	—	(③)	—	(④)	(⑤)	(⑥)
オ	(①)	(②)	(③)	—	(④)	(⑤)	—	(⑥)